

ふれんどりい代表取締役

筒井 すみ子 氏(3)

ので、看護師のいないときは、家族として私が処置をした。母が寝たきりになつてからは、私も変化があった。あれほど母に対してイライラしていた気持ちが全くと言つていいくほどのなり、穏やかな気持ちで向き合えるようになつた。母に冷たい態度をとつていたところの自分を考えると後悔ばかりで、情けなく恥ずかしくなつた。これからは、母ときちんと向き合つて、いこうと心から思つていた。

「ふれんどりいの郷」は、古民家を利用した、昔の趣のある建物である。何と日本庭園付きで、縁側からの景色には利用者もスタッフも癒されている。母には普通の民家で家にいるよう

寝たきりになつた母は、小規模多機能型居宅介護事業所「ふれんどりいの郷」に帰つてきた。私が重度の利用者を受け入れられるようになると、機械浴やエレベーターも設置して立ち上げた3つの事業所だ。母は週6日泊まって1日家に帰るプランで、ほとんどの時間をこの介護事業所で過ごすことになつた。胃ろうになつた

寝たきり、胃ろうで結婚式や温泉旅行も

な生活をしてほしかったので、この上ない環境だつた。実際に母は、私の声や姿を見ながら過ごしていたし、スタッフたちも

対応の事業所を利用することができたし、時には旅行も

ないと思つていた。

私の娘が結婚することになつた。「おばあちゃんを結婚式に連れていくたい」と言つた。「おばあちゃん、私の娘の強い誘いにうなづいたよ



娘夫婦の結婚式に参列した私(左端)と母。笑顔で写真に

うに見えた。分かっているかど
うかは分からぬが、私たちには「行くよ」と言ったように思
えた。

そして、結婚式に参列する
日。看護師と介護士のスタッフ
に付き添つてもらい、式だけに
参列する予定で、車で片道1時
間かかる式場へ向かうことにし
た。朝起きて結婚式用の服に着
替え、お化粧をして車に乗つた。
いつもはすぐ寝てしまうのに、
この日は式が終わるまで眠ること
はなかつた。写真撮影も問題
なくこなし、祖母としての役割
を果たしたように思う。帰りの
車に乗るとすぐに爆睡した。

ふれんどりいでは、公園の散
歩やドライブなどの行事も多く
行っており、寝たきりの母もよく参
加した。伊豆の温泉に1泊旅行に行
く時に、往診の先生に許可を取ろうとしたら「ド
クターストップです。でも家族
の判断で行くのは仕方ない」と
言うので、家族の判断で行くこ
とにした。当時の母は痰吸引が
必要だったため、看護師にも同
じたり、胃ろうや褥瘡の処置、
入念してくれた。驚いたのは、温
泉旅行から帰ると褥瘡が良くなつていてことだ。「温泉で素
晴らしい!」とみんなで叫んだ。
母は旅行の3カ月半後、この世を去つた。「ドクターストップ」

と言われたが、決行した旅行が
原因ではなかつた。
(続く)